

家庭教育通信

Vol. 1.

21

監修：白井市家庭教育講座講師 富澤 優江^{ゆうこ}

発行元：白井市教育委員会（教育部生涯学習課 492-1111 内 3433）

平成22年3月発行

「家庭教育通信」は、子どもたちの健やかな成長を願い、よりよい家庭教育について、皆で考え行動することを目指して、白井市教育委員会が情報を発信するものです。

「親子の会話。言い合いになっていませんか？」

あなたは、いつお子さんを怒りましたか。今朝ですか？ほんの5分前ですか？それとも、怒ってしまった後の気まずさを避けようと怒りを我慢したり、気にしないようにしたりしていますか。

子どもが生まれた時、多くの方は「やっと会えたね」「生まれてきてくれてありがとう」など心の底から「ありがとう」と子どもを授かった喜びと感謝に満たされたことでしょう。しかし、子どもが歩き始め、「イヤダ！」など言葉を発し始めると親の言葉は「止めて」「ダメ」と変わり、幼稚園入園後は「何度言ったら分かるの」「早くして」「いいかげんにしなさい」と強くなります。

小学校になると、「片付けなさい」「早くしなさい！」「勉強しなさい」と更に強い言葉になり、中学生になると、帰宅時刻を守らないときには「何時だと思っているの！」、制服の着方がおかしいと「何、その服装は！みっともない！」など、口調がけんか腰になります。そして、口答えを

する子どもに対して怒りはますますエスカレートしてしまいます。

その一方で、他の親が子どもに激しく怒りをぶつけているのを見たとき、多くの方は「あんなに怒らなくてもいいのに」「子どもがかわいそう...」と怒られている子どもの立場に立って心を痛めます。

しかし、これがわが子となると、子どもの気持ち・立場などは忘れ去られ冷静ではいられなくなります。

小学4年生の悠くんは、親が怒ったときこう言いました。「ママが怒るのは、いじめだよ。ママの方が体は大きいし力も強い。言うことを聞かなければ怒るし、ゲームは取り上げるし、最後はたたくもの」と涙ながらに訴えたそうです。かけがえのない大切な我が子なのに、他人には決して言わない言葉をキツイ言い方でなぜぶつけてしまうのでしょうか。

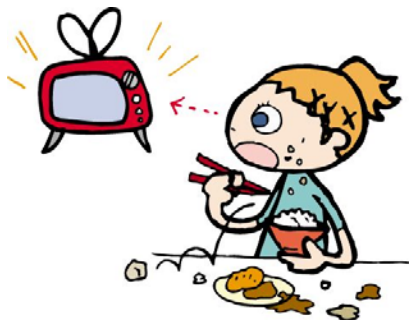
たいいていの親は『友達と仲良くできるようになって欲しい』『自分のことは自分でできるようになってほしい』『勉強ができるようになってほしい』『約束を守れることが大切』など、“ができるように”子どもになって欲しいため、それを躰けることが役割であると思っています。

子どもの将来の幸せのためには不可欠な条件と思う親の愛情のための「怒り」であるのでしょうか。ですが、その愛情とは対極にあるほど、親の不満や日常のストレスの発散としか思えない「怒り」が子どもにぶつけられているのも現実です。

では、愛情であるにしても、ストレスの八つ当たりにしても親の怒りの奥にあるものは、何なのでしょう？

一つの例として、子どもが約束の時間に帰って来なかった時を例にとって考えてみましょう。

ある日、帰宅時間を約束して子どもは出かけました。約束の帰宅時間になって帰ってきません。20分、30分過ぎても何の連絡もありません。あなたはど



んな気持ちになりますか。

更に、50分、1時間が過ぎました。子どもの年齢によっても違いますが、あなたはどうしますか？

約束の帰宅時間から1時間30分過ぎました。子どもの友人宅に電話をしますか？携帯電話を持って探しに出ますか？「何かあったのかしら。どうしよう...、事故？誘拐？何故、連絡しないの！！もしかしてできない...？」心配、不安、焦り...様々な憶測が飛び交い、何事も手がつかなくなってしまおうでしょう。

そんな矢先、子どもがひょっこり何食わぬ顔で帰ってきました。その時、どんな言葉が口をついて出てきますか？

「何時だと思っているの？どこに行っていたの？遅いじゃない！約束したでしょう！約束は守るべきよ。いつも言っているでしょう。困るのはあなたよ。あなたのために言っているのよ！」「聞いているの？」「分かっている？」親の言葉は止めどなく続きます。

子どもが『だって...』と言えば「言い訳するんじゃないの！約束を守らなかったのは、あなたでしょう！」と。子どもが『ごめんなさい』と面倒くさそう言えば、「ナニ！その言い方は。悪いと思っていないのでしょうか？！」子どもが『うるさいな！』と言えば、更に親の怒りは次々と飛び火し強い言葉となって炎を噴きます。この時、親は子どもに対して思う《親としての優しい気持ち》を子どもに認められていないと思い、拒絶感や悲しさ、みじめさを一瞬のうちに感じています。ですが、親自身、その感情に気がついていません。



この親は子どもの帰宅でほっとした心の緩みと共に、溜まりに溜まった心配、不安、恐れ、苦しさが一気に噴き出しました。子どもに対し強く怒り、きつく言い渡せば子どもは懲りて親が苦しいことや不快に思うことをしないだろうと思っています。けれど、子どもに伝わっているのは【怒り】だけです。そこで子どもが学ぶことは、《怖いからやめよう》《怒られるからしない》《見えないところでやればい》《怒られなければやってもいい》という行動の規制の仕方です。親の子を思う気持ちは、伝わっていません。親が心配、不安、拒絶感、寂しさ、苦しさが“怒りの引き金”になっていることに気づき、その心配や不安だった“も

もとの感情”を子どもに伝えれば、親は加速度をつけて怒りをエスカレートさせる必要もありません。子どもにも自分がどんなにか大切にされているかがストレートに伝わり、子どもは愛情を理解することができるのです。

怒りなくなった時、親は何が満たされていないのか、何が脅かされているのか心の中を探ってみましょう。その時、どんなことばが出てくるでしょう。

帰りの遅い子どもに「帰ってきてよかった。心配したよ。約束の時間に帰って来ないんだもの、何かあったんじゃないかと思って」と。子どもを大切に思う気持ち。言葉にしていますか？

県内の相談場所

・ 家庭教育の悩みや不安について

白井市教育委員会教育部教育センター室	492-2301
県子どもと親のサポートセンター (障害のある・あるかもしれない子どもの養育や教育について)	0120-415-446
県総合教育センター特別支援教育部	043-227-1166

・ 養育上の悩みや非行・虐待などについて

白井市家庭児童相談室	497-3477
中央児童相談所(子ども家庭110番)	043-253-4101
社会福祉法人 千葉いのちの電話	043-227-3900

・ 子どもの非行などについて

千葉県警少年センター(ヤングテレホン)	0120-783497
---------------------	-------------

・ 教え・育てる ウェブサイト 「親力アップいきいき子育て広場」

http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi_pc/	(PCサイト)
http://www.kplaza.pref.chiba.lg.jp/emanabi/	(携帯サイト)

